

平成30年 8月 30日

東松島市議会議員 阿部 勝徳 様

(会派名) 清風・公明

代表者氏名 五ノ井 惣一郎



会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動を実施したので報告します。

記

1 会派活動の項目

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

2 活動名称：

(1) 北海道夕張市

(2) 富良野市および(財)富良野メセナ協会(NPO法人演劇工房含む)

3 実施期日：

平成30年7月30日(月)～8月 1日(水)

4 活動目的：

7月 30日 (月)	夕張市	13:30 ～ 16:30	1 高校の魅力化 2 スクールバスの運行状況 3 公設塾(キセキノ) 4 有害鳥獣の捕獲について
31日 (火)	富良野市	10:00 ～ 11:30	1 有害鳥獣の捕獲について
	富良野メ セナ協会	13:30 ～ 16:30	1 発足経緯と現状 2 公設劇場「富良野演劇工場」

5 その他

(1) 行程表(移動手段を含む)、参加者名簿、説明・質疑・所見等別紙のとおり。

(2) 北海道での移動は、全行程車両



平成30年度第2回視察計画

1 視察期間

平成30年7月30日(月)～8月1日(水)

2 視察先

(1)北海道夕張市

(2)富良野市および富良野メセナ協会(NPO法人演劇工房含む)

3 視察項目及び内容等

視察場所	視察項目	視察目的
夕張市	1 高校の魅力化 2 スクールバスの運行状況 3 公設塾(キセキノ) 4 有害鳥獣の捕獲について	1 人口減少と高齢化が進む中、学校教育環境と学力向上支援事業の現状について 2 有害鳥獣の出没時の対応策について
富良野市	1 有害鳥獣の捕獲について	1 出没時の対応と対応策について
富良野メセナ協会	1 発足経緯と現状 2 公設劇場「富良野演劇工房」の発足経緯と現状	1 協会の発足経緯と現状について 2 演劇工房(演劇工場)現場視察 3 富良野メセナ協会の活動について

4 視察時程

月 日	時 間	場所等	備 考
7月 30日 (月)	06:30	東松島発	ANA1221
	07:30	仙台空港着	
	08:15	仙台空港発	
	09:25	千歳空港着	
	10:10	千歳空港発	
	12:30	夕張市役所着、昼食	
	13:30	視察開始	
	16:30	視察終了	
	17:00	ホテル着	
31日 (火)	08:00	ホテル発	昼食 演劇工場視察 ホテルナトールヴァルト 富良野泊
	10:30	富良野市役所着(視察)	
	11:30	視察終了	
	12:00	メセナ協会着	
	13:30	視察開始	
	16:30	視察終了	
	18:00	ホテル着	
8月 1日	08:30	ホテル発	昼食 ANA3134
	11:30	千歳空港着	
	14:15	千歳空港発	

(水)	15:25	仙台空港着	
	16:00	仙台空港発	
	17:00	東松島着	

5 参加者名簿

	氏名	役職
1	五ノ井 惣一郎	会派代表、議運副委員長、総務常任委員会副委員長
2	熱海 重徳	会派副代表、財務常任委員会委員長 広報常任委員会
3	上田 勉	会派幹事長、民生教育常任委員会委員長 広報常任委員会
4	土井 光正	会派事務局長、産業建設常任委員会
5	齋藤 徹	産業建設常任委員会
6	石森 晃寿	総務常任委員会
7	手代木 せつ子	民生教育常任委員会、広報常任委員会

6 質問事項等

視察場所	視察項目	質疑内容
夕張市	1 高校の魅力化 2 スクールバスの運行状況 3 公設塾(キセキノ) 4 有害鳥獣の捕獲について	1 人口減少と高齢化が進む中、学校教育環境と学力向上支援事業の現状 2 有害鳥獣の出没時の対応策について
富良野市	1 有害鳥獣の捕獲について	1 出没時の対応と対応策について
富良野メセナ協会	1 発足経緯と現状 2 公設劇場「富良野演劇工房」の発足経緯と現状	1 協会の発足経緯と現状 2 演劇工房現場視察 3 メセナ協会の現状

7 視察状況

(1) 視察内容の検討

年度計画に基づき、夏場の天候等の影響を受けにくい北海道地域選定し環境・教育・福祉事業などの課題について調査すべく調整したが受け入れ先の事業や活動可能日程の状況により、「夕張市」「富良野市」に対する視察となった。

夕張市については、財政関係の視察は受け入れ困難とのことであったため、近年人口減少と夕張高校の魅力化対策事業(キセキノ)の一定の成果について情報を得ることができたので、併せて減少化する子供たちへの教育環境に是正に向けての事業展開について視察した。

また、東松島市においても近年頻発する有害鳥獣対策についても視察項目とした。富良野市については、韓国オルレの実施に向け観光事業のトップを走る富良野市を選定したがさすが観光客の多い時期と重なり対応困難とのことであったのでここに於いても、有害鳥獣の捕獲等についての視察とした。富良野市には、日本で初めて発足した「NPO法人演劇工房」があり活動中であるため併せて視察した。

以下各視察内容について記す。

(2) 夕張市

ア 市勢等

夕張市は北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、東西24.9キロメートル、南北34.7キロメートル、面積763.07平方キロメートルの街。

夕張市一帯は夕張山地の豊かな森林や清流に育まれた丘陵で、夕張岳（1,668メートル）から流れる夕張川とその支流が市内のほぼ中央を貫き、流域に沿って帯状に街が形成されています。

山や丘陵に囲まれた地形的特徴から、四季の変化や昼夜の気温の変化が大きく、また、風はまわりの山々にさえぎられて弱められています。

明治24年（1891年）の炭鉱開始以来、炭鉱の街として栄え、昭和18年（1943年）には市制が施行された。

一時は大小24の鉱山、人口12万人を数えましたが、昭和40年（1965年）代に入って次々に閉山。「炭鉱の街夕張」としての歴史に幕を閉じた。

現在、石炭の歴史村にある「石炭博物館」「炭鉱生活館」「模擬鉱」などに、炭鉱の街夕張の歴史や生活が再現されている。

炭鉱に替わって夕張の顔となったのが「観光」。かつての炭鉱跡地を利用し、昭和58年（1983年）にオープンした「石炭の歴史村」をはじめ、北海道屈指のスキー場マウントレースイ、ゆうぱり国際冒険・ファンタスティック映画祭をはじめとする多彩なイベント、全国的にその名を知られる銘産夕張メロンを原料とした特産品開発、雄大な自然環境の利用など、いち早く新たな街づくりに着手、北海道に数ある元・炭鉱の街の中で、最も活性化された街として注目されている。

夕張市は財政再生団体であるため、各会計の市債残高の他に再生振替特例債の残高がある。

財政再建計画策定時（平成18年度）から返済した額の約31億円を含み、財政再生計画に基づき返済していく。

借金時計では、再生振替特例債のみしめされているが再生振替特例債償還終了年月は2027年3月である。

現在残高は、約206億円であり、毎年約2.5億円返済している。

(ア)人口 総人口：8,843人
男性：4,092人



夕張市庁舎



厚谷議長が最後まで対応



夕張小学校

女性：4,751人（平成27年国勢調査）

●平成30年7月31日現在

総人口：8,225人

男性：3,795人

女性：4,430人 世帯数：4,834世帯

(イ)由来

アイヌ語のユーパロ（鉱泉の湧き出るところ）の転訛したもの。

(ウ)学校

高校：1校

中学校：1校

小学校：1校

幼稚園：1園

認可保育所：3園

イ 有害鳥獣の捕獲等の対策について

(ア)対象鳥獣の種類・被害防止計画等

エゾシカ、アライグマ、キツネ、カラス、ヒグマ

期間は3年程度、対象地域(広域で実施)は、栗山町、夕張市、由仁町、長沼町、南幌町

(イ)被害の傾向

エゾシカは、域内一円に生息しているが、特に夕張山系、馬追丘陵地帯の国有林等で生息し、近隣の農地に出現し農作物を採食している。毎年度相当数を捕獲しているが、現状の捕獲数では、追いつかず、抜本的対策が望まれる。

田植え等の植え付け時期から収穫時期までの長期にわたり出没し耕作地の踏み荒らしや、食害が見られるなど、農業被害が出ており、この被害による農業者の意欲減退及び農業所得の減少が懸念されている。

アライグマは、捕獲数が近年大幅に増加しており、生息数も激増しているものと推測される。被害は全域に見られ、年々農業者からの駆除依頼も増加しており、箱わなでの捕獲を実施しているが、追いついていない。更に露地野菜から施設野菜へと食害は拡大しており、甚大な被害が見込まれる。

キツネは、域内一円に生息し、捕獲数は近年大幅に増加しているが、箱わなでの捕獲が難しいため、生息数は大幅に増加しているものと推測される。農作物被害のほか鶏の被害も多い。市街地への出没も目立っており、エキノコックス等の病原菌感染等もあり生活環境への被害が懸念されており、対策が求められている。

カラス類は、移動能力が高いことから、広範囲で被害が出ている状況である。

果物や播種した種子、若芽の食害の他、農業施設（ビニールハウス）への被害もある。

ヒグマは、山間地帯で多くの目撃・出没情報が寄せられ、特に受粉時のハチ箱やメロン畑付近で頻繁に出没している。

近年は山際の農地や住宅付近にも出没が見られ、住民の生活環境への被害も予測される事から、十分な安全確保対策が求められている。



石炭博物館を視察

(ウ)被害軽減目標

指 標	現状値 (平成 27 年 度)		目標値 (平成 31 年 度)	
エゾシカ 被害面積 被害金額	13.63 ha	12,735 千円	9.54 ha	8,914 千円
アライダマ 被害面積 被害金額	6.57 ha	8,605 千円	4.59 ha	6,023 千円
キツネ 被害面積 被害金額	0.47 ha	704 千円	0.32 ha	492 千円
カラス類 被害面積 被害金額	3.74 ha	4,645 千円	2.61 ha	3,251 千円

(エ)被害防止策

	防止策	課題
捕獲等に 関する 取り 組み	有害鳥獣対策として獵友会の協力を得て、銃器、くくりわな、箱わな等による駆除を実施している。 エゾシカ：銃器・くくりわな、 囲いわな アライダマ：箱わな キツネ：銃器・箱わな カラス類：銃器、箱わな ヒグマ：銃器・箱わな	<ul style="list-style-type: none"> •被害を受けている農業者からの通報により出動しても、既に移動している場合が殆どである。 •出没时间も明け方から銃器の使用できない夕方が多い。 •銃器による捕獲は、地理的条件によつては安全対策の観点から使用が困難な場合がある。 •獵友会会員の高齢化や負担の増加により捕獲の担い手が減少し被害を抑制できない。 •捕獲機材の増加や、老朽化した捕獲機材の更新も必要である。 •捕獲個体の処理に係る負担が大きい。 •国有林、道有林など捕獲に制限がある 区域が多い。
防 護 特 等 設 置 に 関 す る 取 り 組 み	鳥獣被害防止総合対策事業で、金網防護柵を総延長90.6km、電気防護柵を106.3km設置している。 また、一部地域において、町単独事業により電気防護柵や威嚇機器を設置している。	<ul style="list-style-type: none"> •防護柵の整備後、エゾシカの生息域に変化が見られ、未整備箇所からの侵入が見られる。 •金網防護柵は、管理・修繕に係る負担が大きい。 •電気防護柵は、一定の効果が見込まれるものの個別柵が多い。

(オ)今後の取り組み

- ①近隣5市町、農委、農協、獵友会等で構成する広域協議会において、関係機関と連携を密にし、被害防止に向けて効果的な対策等を推進していく。
- ②捕獲機材を整備する。
- ③狩猟免許の取得支援や技術的な研修会の開催等により、担い手の育成を図る。
- ④鳥獣の生息状況等に関する情報把握に努め、鳥獣の習性等に関する知識の向上

を図る

- ⑤生息環境管理の推進を図る。
- ⑥鳥獣被害対策実施隊により効果的な個体数調整を図る。
- ⑦防護柵を設置し、被害を防止する。
- ⑧効果的な捕獲方法を研究し、対策の強化を図る。

(カ)対象鳥獣の捕獲体制

近隣5市町で構成する広域協議会において関係機関の連携を図り、有害鳥獣による被害発生状況、生息状況等を調査し、効果的な対策を講じることで、農林業被害を最小限に抑制する。

国有林、道有林については、入林許可を申請し捕獲する。

- ①エゾシカ、キツネ、カラス類～銃器・わなによる捕獲
 - ・捕獲については、鳥獣被害対策実施隊及び地元獺友会に委託する。
- ②アライグマ～箱わなによる捕獲
 - ・捕獲については、鳥獣被害対策実施隊及び地元m友会に委託するほか、一部農業者が捕獲従事者となり捕獲する。
- ③ヒグマ～銃器・箱わなによる捕獲
 - ・捕獲については、地元獺友会会員から非常勤嘱託員として委嘱する。

(キ)対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方

エゾシカについては、過去の捕獲実績と増加率を勘案し、1,800頭を目標とする
アライグマについては、過去の捕獲実績と増加率を勘案し、1,500頭を目標とする
キツネについては、過去の捕獲実績と増加率を勘案し、800頭を目標とする。
カラス類については、過去の捕獲実績を基に、3,100羽を目標とする。
ヒグマについては、出没個体数に応じて捕獲する。

ウ 夕張高校の魅力化プロジェクト

市内唯一の高校であり、入学生徒は、ほぼ夕張中学生。

人口・地元進学希望率の減少によりは以降の危機にあった。

平成24年度の入学者数は、52人。

進学率84%

平成28年度は、19名、49%

・ 国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の分析によれば、夕張市の人口は平成27年（2015年）時点で9,257人、平成52年（2040年）時点で3,883人と推計されていたが、すでにこの推計を上回る速度で人口減少が進んでいる。

- ・ 直近5年間は、平均で200人/年の社会減少。
- ・ 10～20代の若者のみならず、60歳以上の高齢者が、転出者のうち3～5割



を占める。

- ・ 市外から通勤して夕張で働く就業者は800人以上。

- ・ 通勤者が夕張に住む場合の住宅は、民間賃貸住宅への居住意向が最も高い。

- ・ 夕張高校に進学する生徒が減少。卒業生の多くが市外へ。

これらから夕張の「課題」を「教育資源」としてプログラムを策定した。

それが夕張学舎「キセキノ」である。

<夕張市公設塾「夕張学舎キセキノ」>

今年4月23日開設。

「夕張高校魅力化プロジェクト」の一環として、4月23日にオープンしました。

※「キセキノ」に込められた意味

○奇跡…常に高い目標を持ち、決してあきらめずにコトを起こす。

○軌跡…先人が遺した歴史や財産を重んじ、自分の未来を開拓する。

○輝石…自分の可能性を信じ、家族や友人への感謝を胸に、光り輝く。

○目標とする進路(こ向かって、自らの力で切り拓き、美行する、社会で活躍できる人材を育成します。

○全国から注目される夕張の地で、多様な学び、交流を通して「次の社会のカタチ」を探求します。

- ・希望の進路に向け、一人一人に合わせた学習カリキュラムを作成。

- ・著名な外部講師が集まり多様なゼミ学習を実施。

- ・海外の学生、他の公設塾、地域住民などと交流学习を実施。

エ 夕張市のスクールバスの状況

夕張市には最大30校を超える小中学校があった。人口減少とともに統廃合が進み平成23年度に小中学校各1校ずつとなった。

平成30年度全児童数は、304名である。



南北30キロの町並みを通して
いる。

①通学支援

平成23年～

- 1) 児童生徒の通学費（バス定期代）は全額市が補助（現物支給）
- 2) 児童見守りシステムを導入し、保護者への安心感を醸成
- 3) 毎年4月の1ヶ月間、新入学児童のバス乗車マナーの指導と車内の見守りのため添乗員を配置（臨時職員を雇用）

4) 特別な支援が必要な児童生徒はタクシー業者に委託し登下校の支援、平成29年～

5) バス路線の減少により児童生徒の年間定期を平日のみの定期に変更（約400万円の削減）

6) 夕張市はJR廃線の方針を打ち出していることから、JRを利用している高校生に対しても希望者に定期代を補助（現物支給）

7) 乗車人数に応じた配車を行うため、スクールバス予約システムを導入し、生徒自らタブレット・スマートフォンで予約を行っている。（現在は、利用者数の少ない平日・休日の部活便のみ対応）

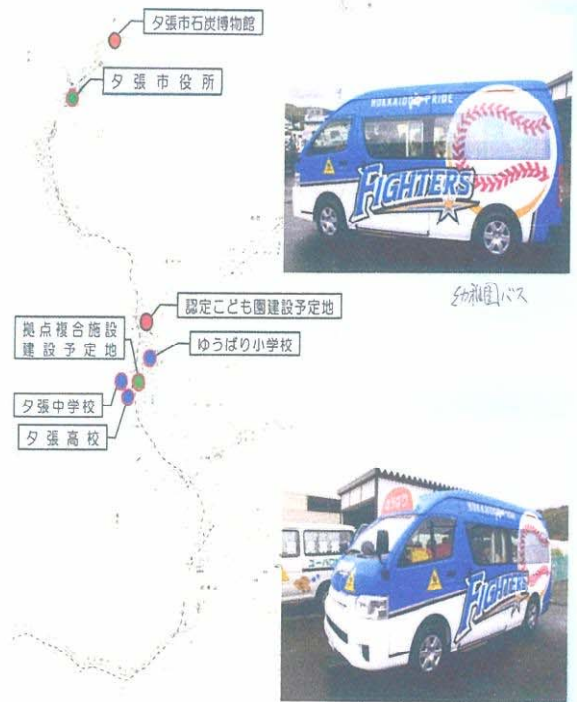
8) 特別な支援が必要な児童生徒を障害児支援事業者に変更し登下校の支援

9) 小学校における少年団活動のスクールバスの活用（日常の練習時）

②通学支援予算

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
通学支援予算(千円)	31,790	32,210	42,451	47,036
全児童生徒数(人)	336	326	382	372
(内、高校生数)			(76)	(66)
一人当たり(円)	94,613	98,804	111,128	126,441

通学バス・定期代のみ



夕張市のスクールバスの状況

オ 教育環境と学力向上策

①現状と課題

小中学校とも全道・全国平均をほとんどの分野で下回っている。

生徒数の減少と専門分野への思考があることから、地元、夕張高校への進学者数が年々減少し存続の危機にある。

②対応策

- ・夕張ならではの教育環境の充実を図り、基礎学力の向上と郷土愛教育の推進を図る。
- ・グローバル人材の育成をめざし、教育環境を整備
- ・夕張高校の魅力化創出を発信

③教育環境充実の取り組み

- ・放課後学習支援事業(サポートスタディ)(H29～)
(小学校で週2回、宿題を中心に学習支援)
※地域おこし協力隊・地域ボランティアの活用
- ・漢検・英検の受験費用全額補助(小中学校とも)(H28～)
- ・小中高一貫したマンツーマンオンライン英会話の実施(H29～)
※H29・H30の2カ年で小・中学校にタブレットの購入と無線LAN環境整備を実施
- ・ALT(外国語指導助手)の配置(1名)(H11～)
※幼稚園・保育所・小学校・中学校で活用
- ・子供の居場所づくり事業での学習支援(H29～)
※北部・南部に各1カ所
- ・楽しい学校生活を送るために(U-Q)の実施(H27～)

カ 夕張の財政再建

昭和30年以降平成2年まで炭鉱の閉山が相次ぎ人口の減少が続き、地域経済が悪化した。

投資的経費は、昭和54年47億9千万、平成元年69億1千万、再建団体となった平成19年では、公営住宅が4069戸。当時の市全体の個数6552戸。



(3) 富良野市

富良野市は、上川総合振興局管内の南部に位置し、東西約32.8 km、南北約27.3 kmで北海道のほぼ中心にあり富良野盆地の中心都市である。

総面積は、600.71km²で、東方に+勝岳連峰の富良野岳(1,912m)、西方に夕張山地の芦別岳(1,726 m)がそびえ、南方には東大演習林(227.16 km²)があり、市域の約7割を山林が占める自然環境にある。

◎富良野の語源

アイヌ語の「フラヌイhura-nu-i(臭・もつ・



議場

所)」が転訛したとする説が有力となっており、富良野川の水源が十勝岳であるために、硫黄の臭気を含むことから呼ばれたと考えられる。

◎沿革

富良野市の開拓は、明治29年(1896)に富良野原野殖民地区画の設定が行われ、明治30年当時は富良野村の人口が稀少のため、歌志内村に歌志内村外一箇村戸長役場が置かれた。

大正8年(1919)4月町制を施行し富良野町となる。

昭和31年(1956)9月町村合併促進法の適用を受け東山村と合併し新富良琴町が誕生、10年後の昭和41年(1966)5月には山部町(昭和40年1月町制施行)と合併し道内29番目の都市として富良野市が誕生した。

人 口 (H30. 3. 31)
 21,910人
 男 10,339人
 女 11,571人
 世帯数 10,829
 高齢化率 32.3%(7,072人)



五ノ井代表挨拶



議場で記念撮影

ア 有害鳥獣対策について

経済部農林課から資料に基づき説明を受けた。

(ア)富良野市鳥獣被害防止計画：平成28年度策定

①対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣 エゾシカ、ヒグマ、アライグマ
 計画期間 平成28年度～30年度
 対象地域 北海道富良野市



議長挨拶

②鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針
 被害の現状(平成26年度農家からの聞き取り調査などにより推計)

③被害の傾向

鳥獣の種類	被害の現状
エゾシカ	ビート小麦牧草水稻・西瓜スイートコーンデントコーン豆類
ヒグマ	ビートスイートコーン水稻その他
アライグマ	スイカスイートコーンその他

鳥獣の種類	被害の現状
エゾシカ	市内全域において、3月の小麦の食害から始まり、年間を通して農作物被害が発生。近年、被害面積及び金額ともに減少傾向にあるものの依然として高水準であることから農業者にとって深刻な問題となっている。

ヒグマ	市内全域において農作物被害があり、特に8月のスイカ、スイートコーン、10月以降はビートの食害がある。また、近年日中に出没することが多くなってきていることから農作物のみならず農業者など人畜への被害について懸念される。
アライグマ	現在、西部地域を中心に農作物被害が発生。捕獲頭数が年々増加していることから被害が拡大する傾向にあるため、捕獲体制を整備し被害を未然に防ぐ必要がある。

④被害の軽減目標

各3割減を目標とする。

⑤従来講じてきた被害防止対策と課題

		対 策	課 題
捕 獲	エゾシカ ヒグマ	・地元獵友会の協力のもと、銃器及びわなによる捕獲を実施。 ・捕獲に要する経費の助成。	・銃器による捕獲については、時間・現地の状況・場所等など多くの制限がある。
	アライグマ	・「富良野市におけるアライグマ防除実施計画」を策定（H23.1更新）し、市職員及び獵友会、農業者と連携し箱わなによる捕獲を実施。	・箱わなについては、数量に限りがあるため効果的な捕獲が難しい。
防 護 柵 設 置	エゾシカ	・平成18年度に市内東部地区で侵入防止柵81kmを設置。 ・平成20年度に市内東山地区で侵入防止柵100kmを設置。 ・平成22年度に市内富良野中央地区で44.3km、山部地区で34.0kmの侵入防止柵を設置。 ※市内全域に設置済み	・河川、道路からの侵入を防止することが難しい。

(イ)今後の取組方針

農作物・人畜への被害を最小限にとどめるため、捕獲従事者の安全で確実な捕獲技術の習得による捕獲活動の継続・拡充と侵入を抑制するための防護柵の維持・補修を行う。

①対象鳥獣の捕獲等に関する事項

対象鳥獣の捕獲体制

【富良野市鳥獣被害対策実施隊】

被害者等からの情報により速やかに捕獲活動に従事できるよう地元獵友会に情報提供を行うとともに被害状況等を確認する。

【捕獲体制エゾシカ・ヒグマ】

地元獵友会の協力のもと、銃器による捕獲を継続的に実施するとともに、エゾシカについては『くくりわな』、ヒグマについては頻繁に出没し被害が発生している箇所については必要に応じて『箱わな』による捕獲を実施する。

【捕獲体制アライグマ】

「富良野市におけるアライグマ防除実施計画」に基づき、『箱わな』による捕獲を実施し被害発生地域、生息確認地域に集中した効果的な捕獲を実施するとともに、銃器による捕獲も合わせて実施する。

②対象鳥獣の捕獲計画

○捕獲計画数等の設定の考え方（※近年の捕獲実績を基本に設定する）

【エゾシカ】

この間の対策により、捕獲頭数及び被害面積とも減少傾向にあることから、引き続き捕獲を推進し農作物被害の減少をめざす。800頭

【ヒグマ】

比較的若齢の個体が、日中にも出没しているため目撃情報が増加している。農作物への被害の減少はもとより人畜への被害防止をめざす。15頭

【アライグマ】

富良野西部地域を中心に、農作物への被害情報が寄せられている。被害拡大が予想されるため、「富良野市におけるアライグマ防除実施計画」を活用し、被害拡大の防止をめざす。50頭以上

○捕獲等の取組内容

【エゾシカ・ヒグマ】（捕獲区域～富良野市一円）

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、鳥獣の捕獲等を行わなければ農産物への被害の軽減を図れないと判断される場合は、当該区域を含めて、北海道へ捕獲許可申請書を提出し許可を受け捕獲等を行う。捕獲手段～主に銃器（ライフル銃・散弾銃）とし、状況に応じて箱わな、くくりわなを使用する。

【アライグマ】（捕獲区域～富良野市一円）

捕獲手段～「富良野市におけるアライグマ防除実施計画」に基づき、箱わなを使用するとともに、銃器による捕獲を実施する。

イ NPO法人ふらの演劇工房

(ア)ふらの演劇工房設立の経緯

わが国のNPO法人認証第1号であり、公設の富良野演劇工場の管理運営委託をうけている「ふらの演劇工房」を視察した。

富良野市の市街地から少し離れた丘の上に、石垣と石畳がきれいなモスグリーンの建物が立っている。ここが、「ふらの演劇工房」の本拠地「富良野演劇工場」、運営をNPOが行う全国初の公設民営劇場である。

「ふらの演劇工房」は、富良野を舞台にしたテレビドラマ「北の国から」の脚本家、倉本聰氏が設立した「富良野塾」や倉本氏のファンによる市



篠田さんからの説明

民活動から始まった。

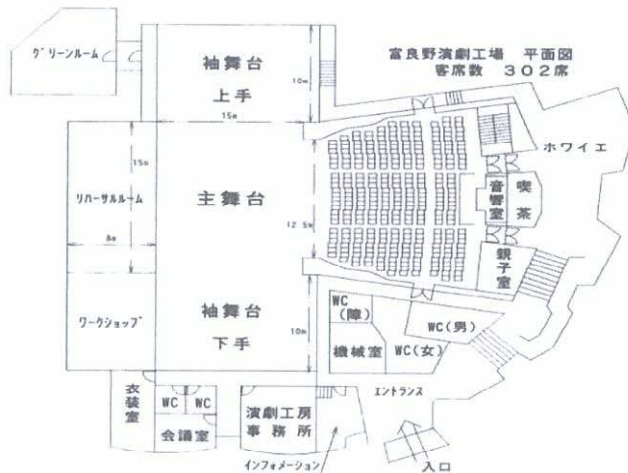
「富良野はドラマで有名になったが、市民が何かをしてくださるだろうか」という問い掛け。本当に富良野に住んでいて良かったと思えるようにと、ファンクラブの一部が発起人となって会を結成、平成9年9月から演劇を中心とした文化活動を始めた。



当初は、市民が演劇に親しむ環境づくり目的とし、「富良野塾」の演劇講座や寺での上演会の手伝い、また、作業療法士であるメンバーを中心に、「演劇リハビリ」（演劇を通して心と体の回復を図る）による高齢者支援活動等を行っていた。

その後、公的な後ろ盾が欲しいということで財団法人を設立、その頃から富良野に劇場を持ちたいという意識が生まれてきた。

平成11年、NPO法案が国会で成立した年に、全国第1号のNPOとして認定された。



しかし、劇場建設については、富良野市民の間に「税金で倉本劇場を建設するのか」

などの反発があった。「市民のための劇場であり、富良野に育とうとしている演劇文化を子ども達にも伝えたい」という信念の下、現理事の篠田さん達の頑張りによって、何とか建設に漕ぎ着けた。

念願の「富良野演劇工場」は平成12年に完成。小さい子供の世話をしながら鑑賞できる親子室をはじめ、演者や観客の立場に立ったこだわりが随所に散りばめられている。建設にあたっては、市民が参加しての石畳・石垣積みが行われ、エントランスには建築会社の社名ではなく、建設に携わった人達全員の氏名が刻まれている。



広いステージで説明を受ける

NPO設立当初12人であったメンバーは、今では社員150人、サポーターである友の会の会員350人という大きな組織に発展している。150人という大人数の社員は、必ずしも演劇好きというわけではないが、当会の活動に賛同し運営に積極的に関わっている人達で、7割方は地元の居住者である。

職業も商店主、事業主、主婦など様々である。

一方、友の会の会員は道内外の広範囲から集まっている。

今後主眼を置きたい事業として、ワークショップ（市民参加の体験講座）がある。ワークショップには、学校（市内7校と連携）での演劇授業を実践し



控え室

ながら指導者を養成する「表現教育指導者養成講座」、音響・照明・舞台芸術等を学ぶ「舞台技術ワークショップ」など多彩なテーマがあり、年間30本以上開催している。

ワークショップは単に演劇人を養成するということではなく、「子ども達のコミュニケーション能力・自己表現の向上、福祉・医療分野での活用など、演劇は色々な可能性を持っている」と篠田さんは力説する。

(イ)事業の目的

演劇の持つ「創る」「癒す」「育む」をキーワードに、大人も子供も楽しめる「演劇のまち富良野」を目指す。

広域の連携により「演ずる人」「観る人」「公演を支える人」そして「劇場」が一体となって、演劇文化を育てて行きたい。

H12年10月に完成した「富良野演劇工場」（劇場）を富良野市から受託し、創造、発信する拠点となった。

芝居に限らず、市民のアイディアで色々な企画を支援し、まちの元気づくりの一翼を担いたいと考えている。

(ウ)事業の内容と活動報告

①学校演劇の支援と人材育成に関する事業

- ・表現教育・演劇・舞台技術等ワークショップ・朗読ワークショップ

②演劇を通して健康を増進する事業

- ・演劇リハビリテーション

③市民芸術活動を支援する事業

- ・市民プロデューサー事業
- ・工房サークル活動（市民劇団、朗読、ゴスペル他）
- ・演劇工場まつり（サークル活動の成果の発表の場の提供、エコ・ファッションショー、市民交流の場）

④演劇鑑賞事業

- ・富良野塾（現・富良野GROUP）のロングラン公演の支援
- ・塾OBの劇団（イレブン・ナイン）の巡回公演の支援

ウ 富良野演劇工場とは

富良野演劇工場は平成12年10月にオープンした、全国初の公設民営劇場です。全国認証第一号の民間非営利法人「ふらの演劇工房」がボランティア組織で運営を受託管理している。

建設にあたっては富良野在住の作家倉本聰氏が深く関与しており、建造物としてのユニークさもさることながら、作る側のニーズを十分考慮した劇空間としても大変ユニークな存在となっている。

「見る劇場」から「創る劇場」へと、発想の転換がなされた日本でも初めての小劇場とあっていい。



会議室・控え室



「富良野演劇工場」という名の通り、ここでは、演劇を創ることに重点をおいており、建物の4分の3が舞台を創るためのスペースになっていることも特徴で客席は約300席。

館内には軽食・喫茶コーナーやオリジナル商品のショップもあり、富良野の新たな観光スポットとして注目されている。

道内のホール・アーティスト、倉本氏や富良野塾など、ありとあらゆるネットワークを活用し、観客やボランティアの熱意、アーティストに配慮した施設・設備の良さ、創造活動への理解と施設の提供などを売としている。

・演劇工場の設計や工事には、倉本氏から多くの指導があり、衣装の制作室やワークショップルーム（大道具・小道具の制作兼用）、リハーサルルームなど創造のためのスペースを十分に取っている。

また、舞台の袖や奥行きを十分にとって観客席より舞台の方が大きく、上演前に北海道の自然を感じながらアーティストがリラックスできる控え室（グリーンルーム）を備えるなど、演じやすい環境づくりに配慮し、舞台については、原状回復すれば何でもでき、既に何回も穴をあけている。



ステージから客席を見る

ここは公共施設なので、いろいろな市民に利用してもらえるように演劇だけでなく、落語、音楽など様々なジャンルの事業を行っている。

(ア)「富良野演劇工場」の運営理念

①「演劇ソフトの生産工場」として、その機能性を生かした良質で個性的な演劇文化の創造と発信活動を行い、「大いなる感動を生み出すための活動拠点」とする。

②民間ボランティアによる柔軟で独創的な運営をはかり、すべての人々に愛され活用される「市民文化の活動拠点」とする。

③様々な人々との交流を通して未来へのエネルギーが創出される「人づくり・まちづくりの活動拠点」とする。

(イ)富良野演劇工場で行う主な事業

- ・富良野塾・富良野塾OBなどの地元劇団を支援する事業
- ・舞台芸術に関する各種ワークショップ事業
- ・市民や演劇人のための稽古場および発表の場としての貸し館事業
- ・良質な演劇およびコンサート、その他芸能などの鑑賞事業
- ・各種イベント事業
- ・工場の運営を支えるための収益事業

ウ 富良野メセナ協会

メセナMecenatとは、「芸術文化支援」を意味するフランス語です。

文化の香るまち富良野、豊かな心を育み、50年後の子供たちに夢を託せる活動を行う。

広く企業や個人の資金応援を得て、地域の芸術文化を支え、地域力の向上を図ることを目的し、民間と行政との真のパートナーシップを築きあげる。

(ア)事業内容

- ①メセナ活動の啓発。
- ②教育現場と連携し、子供たちの表現教育活動を支援する。
豊富な人材を活用し、子供たちに夢と希望を提供する事業。
- ③各種ワークショップの企画及び開催
- ④芸術文化の鑑賞の機会を提供する。
- ⑤各種団体と連携し、まちの活性化を支援する文化活動を行う。

平成30年度富良野メセナ協会事業実施状況 H30・7・24現在

開催日	時間	場所	学年	事業名	講師名	備考
1	6・29 11:15~12:00	布部小中	全校生(13)	ハーブ出前コンサート	池田千鶴子	担当:工藤教頭
2	7・3 10:40~12:15	樹海小	全校生(17)	楽しく歌おう	嘉村美和子	担当:吉澤先生
3	8・29 9:30~11:00	麓郷小中	全校生(30)	ダンスワークショップ	小塚拓	担当:石本教頭
4	同 12:55~14:30	富良野小	6年	同	同	担当:大角先生
5	8・30 13:15~15:00	樹海中	全校生(16)	朗読ワークショップ	五十嵐いおり	担当:荻野先生
6	9・14 13:25~15:15	西中	3年(63)	科学を楽しむワークショップ	小出雅之	担当:本田教頭
7	9・19 10:30~11:30	鳥沼小	全校生(42)	地球の生き物や自然の話	寺沢孝毅	担当:藤崎先生
8	10・1 8:50~9:40	扇山小	特別支援(13)	心のままに描いてみよう	SatolySatoly(菊池さとみ)	担当:土屋先生
9	同 10:35~12:10	東小	特別支援(22)	同	同	担当:辻先生
10	10・2 9:35~11:25	富良野小	特別支援(40)	同	同	担当:井山先生
11	10・22 10:40~11:25	扇山小	5・6年(45)	エキサイティングコンサート	石川祐支・西本夏生	担当:土屋先生 チェロとピアノ
12	10・25 9:40~11:00	山部中	全校生(24)	狂言ワークショップ	榎本元	担当:新保先生
13	同 13:15~15:00	東小	4年	同	同	担当:辻先生
14	10・30 11:35~12:15	布礼別小	全校生(15)	ヴァイオリン出前コンサート	大平まゆみ	担当:木末教頭
15		本幸小(中富)	全校生(7)	9月か11月10日以降		担当:今村校長
16		調整中		南極観測体験の話	山川良典	
17		調整中		パラリンピックの魅力を探る	永瀬充	
18		調整中		新聞の読み方	佐々木学道新支局長	
19		中富良野中		調整中		
20		上富良野中		調整中		担当:深沢校長 090-5597-8501
21	11・11 13:00~15:00	富良野演劇工場		第12回富良野・森の朗読10分間劇場		
22	12・8 AM	南富良野小		ドイツ国際平和村の話	矢倉幸久	担当:藤沢先生

※毎年富良野市・富良野教育委員会より全事業の後援をいただいています。

※富良野市校長会の副会長が、富良野メセナ協会の担当として位置づけられています。

<富良野メセナ協会代表篠田信子>

8 所見等

(1)夕張市

計画調整の段階で夕張市議会事務局からは、財政再建計画に関する視察は受け入れられないとのことであったが、夕張市の抱える学校教育環境関連、特に、昨年から計画していた

①夕張高校の魅力化対策・存続に向けての事業推



あと、244日で夕張線廃止

進計画「キセキノ」についての成果、

②人口減少に伴う通学支援態勢(1 幼稚園・1 小学校・1 中学校・1 高等学校)のうちスクールバスの運行について

③有害鳥獣の捕獲について視察した。

ア 夕張市公設塾「夕張学舎キセキノ」

夕張高校進学者が減少し廃校がささやかれることに憂慮し、市民・高校が一体となって魅力化と・学力向上に向けての事業を展開したもの。

財政再建自治体となりかつ過疎化が進む中行政も一体となって行を展開した。

財源は、「ふるさと納税」を原資とし、確保でき成果を上げた。

夕張高校の定員割れが進む中で公庫存続に向けての成功事例と考える。道や学校任せでなく市や市民が一緒になって取り組んだ成果今個も期待したい。

イ 夕張市のスクールバスの状況

夕張市には最大30校を超える小中学校があったがいまは、統廃合が進み平成23年度に小中学校各1校ずつとなった。平成30年度全児童数は、304名である。

南北30キロある地形に於いてほぼ中央に位置する清水沢地区に施設を集中させている。

教育には財源を利用しスクールバスによる経費は、市の負担。(無料)

ウ 学力向上策

小中学校とも全道・全国平均をほとんどの分野で下回っている。

基礎学力の向上と郷土愛教育の推進を図るため行っている放課後学習支援事業(サポートスタディ)(H29～)(小学校で週2回、宿題を中心に学習支援)は、学力をつける最短距離。まずは、向き合っ

て学力を少しでも向上させるという意欲が見えた。また、英語教育への熱意、タブレットの利用、無線LAN環境作りの整備が優先的に進めていることはその成果は遠くない将来に毛塚として現れるように思えた。

エ 有害鳥獣の捕獲について

宮城県とは比べものにならない鳥獣の数、種類の変化、被害数があり、近隣5市町での対策を講じている。

今年度は、エゾシカ1,800頭、アライグマ1,500頭、キツネ800頭、カラス3,100羽、ヒグマ出没個体数とし、研修会の開催、生息状況の調査、捕獲方法の研究など、本市とは比べものにならない施策を積極的に行っていた。

有害鳥獣の生息状況や出没個体の変化はあるが、少なくとも周辺自治体や県との情報共有が重要であると感じた。

(2)富良野市

ア 有害鳥獣の捕獲について

富良野市も夕張市と同様広域での対処をしている。

今年度も農作物・人畜への被害を最小限にとどめるため、捕獲従事者の安全で確実な捕獲技術の習得による捕獲活動の継続・拡充と侵入を抑制するための防護柵の



ホテルから見町並み

維持・補修を行うとしている。

地元猟友会との連携、情報の共有、被害発生地域、生息確認地域に集中した効果的な捕獲を実施とし、銃器による捕獲については講習の実施、高齢者の育成にも力を入れている。

対象鳥獣の捕獲計画については、エゾシカ800頭、ヒグマ15頭、アライグマ50頭以上としている。

夕張市と異なるのは、地形的なものであり、夕張山系の生息形態と富良野を中心とする生息体系によるものである。

イ NPO法人演劇工房

わが国のNPO法人認証第1号であり、公設の富良野演劇工場の管理運営委託をうけている「ふらの演劇工房」。

本拠地「富良野演劇工場」で施設見学・説明を篠田さんから受けた。

「富良野はドラマで有名になったが、市民が何かをしてくれませんか」とい

う問い掛けで、ファンクラブの一部が発起人となって会を結成、平成9年9月から演劇を中心とした文化活動を始めたという。

舞台については、原状回復すれば何でもでき、既に何回も穴をあけている。

公共施設なので、いろいろな市民に利用してもらえるように演劇だけでなく、落語、音楽など様々なジャンルを行い、いつも満席とのこと。

東松島市コミュニティセンターとほぼ同程度の客席だが舞台奥行きが広く何でもできる形がよい。

今後も、良質な演劇およびコンサート、その他芸能などの鑑賞事業やイベント事業を続けるという。文化・教育関連事業に賛同する企業や市民が多いことにうらやましくも感じる。

ウ 富良野メセナ協会

全国的な組織にもかかわらずここ富良野に支部をもち活動できる地盤がうらやましい。

また、教育委員会との連携が積極的に行われており、事業展開も積極的であり教育活動や芸術文化への参入を容易にしている。

エ 喫茶・ギャラリー「あかなら」

「北の国から」のロケ地として、30年間にわたり多くの富良野ファンに愛された「北時計」が市民の情熱で喫茶・ギャラリー「あかなら」に生まれ変わったもの。

篠田氏が代表を務めているため、富良野での視察終了後たちよった。



演劇工場で記念撮影



店内の様子

「北の国から」で使用されていたため懐かしい場面も垣間見られる。
今は、福瀬餓鬼先生の関連作品、多くのアスリートが演奏や芸を披露するなどして楽しんでいる。

北海道富良野市を訪れた際には是非立ち寄りコーヒーなど召し上がる場所の一つである。

完



篠田さんを囲み記念撮影

